



まちの話題



南中音更小学校 89年の歴史に幕

南中音更小学校の閉校記念式典が同体育館で執り行われました。これまで89年間、740人が卒業しました。741人目、最後の卒業生で児童会会長の真柄胡幸さん(6年)は「この学校に関わる多くの人のおかげでたくさんの思い出ができた。南中音更小学校89年ありがとう」とあいさつしました。児童によるアトラクションでは、全校児童8人によるパブリカと3・4・6年生6人による御神楽をステージ上で披露。閉校後は、駒場小学校に統合、6年生は駒場中学校に進学します。



自分のタブレット 設定できるかな

下音更小学校2年2組でGIGAスクール構想による授業実践が行われました。これは、町内の小中学校の児童・生徒、教職員にChromebook(タブレット)を貸与し、情報通信技術を活用して全ての子どもたちの学びを保障する環境を実現するものです。児童は自分だけのタブレットに緊張しながらアカウント入力やパスワード作成に挑戦。笹山ちなみさんは「文字を打つのが面白かった」とうれしそうに話してくれました。





町出身者初の夏の オリンピック選手を目指して



町出身の清水賢亮さん(拓殖大学3年)が、全日本大学グレコローマンスタイル選手権大会と天皇杯全日本レスリング選手権大会男子グレコローマンスタイル63キログ級の優勝報告に訪れました。報告を受けて町長は「目指すところまで駆け上がってほしい」と激励。清水さんは「音更から夏の五輪選手が出ていないので第1号になれるように頑張りたい」と決意を述べました。



姉妹町絵画交流作品展が 開催されました



図書館で姉妹町の岩手県軽米町と音更町の小学5年生による絵画交流展が行われました。毎年行われていた「こども姉妹町視察研修」がコロナ禍で中止になったことを踏まえ、交流を継続するために企画。自分たちの住む町の風景や建物など約40作品のほか、軽米町についての情報や広報おとふけに掲載されている軽米町だよりの展示も行われました。



色鮮やかな光が並びました



1月23日から2月14日まで、十勝が丘公園で第30回おとふけ十勝川白鳥まつり彩凧華が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため密の状況を作らないよう工夫をするなど、さまざまな対策をして開催されました。来場した人は寒さを忘れるくらいに幻想的で色鮮やかな光と音のファンタジックショーを楽しみました。



交通安全の功労をたたえて 緑十字章表彰



音更町交通安全協会常任理事の志賀清二さん(81)が長年にわたり交通安全に尽力した功労者をたたえる「交通栄誉賞緑十字」の最高位である金賞を受賞したことを町長に報告しました。志賀さんは「大変な状況だが、体を鍛えて健康管理に気をつけ、もう少し交通安全指導員としてがんばりたい」と話していました。